

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1276000112		
法人名	有限会社桜ヶアセンター		
事業所名	グループホーム憩の家		
所在地	千葉県山武市本須賀3841-2		
自己評価作成日	平成23年1月20日	評価結果市町村受理日	平成23年3月6日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法 VAIC - コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成23年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一年中比較的温暖で、豊かな自然環境に恵まれている。  
 利用者の皆様方に対しては「ケアする・される」という関係ではなく、「今を共に生きる」という気持で接している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は理念に沿ったサービスについて、ミーティングや日常業務のなかで職員に話し、とくに「寄り添うケア」の大切さを説いている。ホームは食事の支援に力を入れており、入居者の希望も取り入れながら職員がメニューを考え調理している。多くの食材を使った昼食は彩りや味も良く、職員と入居者が一緒に賑やかに食事を楽しんでいた。また、看取りに関する指針があり、職員の理解を得て家族の希望に沿った終末期ケアを行っている。看護師の配置や何時でも往診可能な在宅診療所と提携し安心出来る体制となっている。なお、法人はホームの隣に高齢者専用住宅を建設中であり、併設してデイサービスも行う予定である。今後、地域との交流が更に広がることが期待される。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない  1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない  1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない  1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない  1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない  1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様方の人としての尊厳を大切にしたケアを実践している。また、地域との温かな交流を常に心掛け実践している。	ホーム独自の理念があり、管理者は理念に沿ったサービスについて折にふれ職員に話し、入居者本位のケアに繋げている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	遅々とした歩みだが、徐々に関係性が広がり、深まっている。	近隣の人がよく立ち寄り、入居者との会話を楽しんでいる。また、昨年は地域のお祭りに入居者が書いた書道の作品を持参するなど、地域との交流を図っている。ボランティアも多く受け入れており、フラダンスや管弦楽の演奏での来訪がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	催し物にや行事に積極的に参加することにより人々の理解を図ったり、運営会議などで随時お話させて頂いたりしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出来るだけ運営会議での意見を吸い上げてサービスの質の向上に努めている。	運営推進会議は事前に案内し、入居者家族、民生委員、近隣住民、市職員、管理者、法人代表などの参加で開催している。内容は入居者の状況報告や行事の案内、そして行政やホームからの連絡などである。	今後はサービスの内容や課題に対するホームの取り組みなども報告し、参加者からの意見を取り入れながらサービスの質の向上に繋げることも期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村関係者とはなるべくより良い関係を継続して行くべく努めている。	運営推進会議には、市職員の毎回の参加もあり連携が出来ている。また、市の担当部署とは各種申請業務などで連絡を取り合ったりするほか、山武市のグループホーム連絡会などで情報交換を行っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ全員が指定基準を周知しているとは言い難いが、概ね理解しており、そのような事のないよう取り組んでいる。	身体拘束をしないケアに心がけ、とくに新任職員には研修や日常業務のなかで、管理者が言葉使いなどに注意を促している。玄関は日中施錠せずいつでも出入り出来る状態になっている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても概ね理解しているが、言葉遣いなどがつきつくなってしまう事はあるようだ。研修や会議など色々な形で理解を深め実践したい。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム憩の家 自己評価・評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に入居者様の中にお一方、成年後見人として弁護士に委託されているご家族がおり、色々学ぶ機会を持っている。しかし、もっと深く知らねばと思っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分に説明し、理解と納得を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	十分とは言えないだろうが、利用者の意見や不満・苦情などを受止め運営に反映すべく努めている。	家族が面会や運営推進会議への参加で来訪したときには、意見を聴くよう心掛けている。ホームは看取りも行っているが、重度化した入居者家族には頻繁にホームへの要望を聴くなど、連絡を密にしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務ミーティングの他にも毎朝の申し送りや個々の面談等を通じて意見や提案を運営に反映させている。	毎月のミーティング時に職員意見を聴く機会を作っており、勤務体制については要望を取り入れている。また、管理者は職員の処遇改善についても法人代表に具申している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与が低くボーナスも無いので勤務シフトに関しては個々の希望に沿うようにしている。研修への参加も強く薦めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の段階に応じ、適宜研修の受講や資格取得のバックアップに努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に9回ぐらいの頻度で同業者との交流会を行っており、時に相互訪問など行い、質の向上に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム憩の家 自己評価・評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生き立ちや現状について、まずよくお話を伺うことが大切。その人らしさを把握しながらいかにすれば安心して寛いで戴けるか道筋を見つけて行く。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族やご本人の意見・要望をよくお聞きし、そのお気持ちに沿えるように努めて行く。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の様々なお話や情報からその奥に潜む真のニーズを把握するよう努めている。また他のサービス制度についても説明している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ケアする・される」関係ではなく、今を共に生きる関係を常に目指している。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が遠方で暮らしている方が多く、密な関係を保てるご家族は限られている。意識としては共に支えていく関係と捉えられていると思う。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る範囲でそのように努めている。	知人や親戚の来訪がある入居者もいる。また、家族の協力で墓参りをする、家族に電話を希望する入居者に取り次ぎを行う等の支援をしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士での相性の問題は確かにあるが、仲裁に入ったり、孤立せぬように配慮しながら支援している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム憩の家 自己評価・評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も関係は断ち切らず必要に応じて係わりを持って行く。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者、その方の意向や希望を尊び、極力本人本位の立場に立った対処をしている。	入居者の意向の把握、家族との情報共有を積極的に行っている。ミーティングや個別カンファレンスから把握できることも多くあり、本人本位に対処している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	直接の会話以外に、折に触れ各利用者のプロフィールに目を通したり、ご家族や関係者に改めてお聞きしたりしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の心身状態の把握には医療面始め、様々な角度から行うよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	参加できるご家族は限られているが、出来るだけご本人の意見を最優先し、本人の立場になって計画とモニタリングを行っている。	入居者や家族の意向、職員や関係者の意見交換を通じ、入居者主体の介護計画を作っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録が基本になるのでそれを大切にしている。特に問題がある時はセンター方式を部分的に活用するなどしてよりよいケアを目指している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟性ある臨機応変のケアは、このホームの特色でもあるので、これからも同様に取り組んでいく。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム憩の家 自己評価・評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々のボランティア団体と、音楽や踊り、お祭りなどで交流を図っている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	春頃、事情があって、新たなかかりつけ医に殆どの方を交代させて頂いた。24時間の在宅診療所で、月2回は必ず往診に来られる。また、重篤時には毎日のように来て下さる。	24時間対応の在宅診療所をほぼ全員のかかりつけ医としている。往診が月2回定期的に行われ、状況に応じて毎日往診してもらえるようになり、安定を得ている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	10月いっぱいまで今までの2名(正看・準看)のNsが辞職され、12月半ば過ぎから新たな正看の方が勤務されている。日頃の服薬管理、健康管理を今までの方と変わらず行って戴き共に利用者の皆さんを支援して行く。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、ご家族と共に医師や看護師等から話を聞き、出来るだけ文章化している。サマリーは必ず戴き、退院受け入れケアカンファも行うようにしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や看取り介護等については、入居当初からご説明し、ご家族や医療関係者共々協力しながら支援の方向性を築いている。	重度化に伴う指針を契約時に説明し、終末期の同意書も備えている。看護師を配置し、在宅診療医と密に連携を取り合い、重篤時には毎日往診してもらっている。家庭用酸素の導入も検討している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が実践力を身に付けているとは言い難いが、マニュアルはあり、又実際に何度か急変に見舞われたが、その対応において概ね間違いはなかった。より確実なものにしたい。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に適切な非難ができるように消防署立会いの下、訓練を実施している。民生委員や近隣の方々にも折にふれ協力をお願いしている。	年2回避難訓練を行っている。1回目は消防署の立会いで実施、2回目は発火場所等を想定した夜間の訓練を行っている。近隣にも避難時の協力体制を依頼した。	近隣の協力体制を運営会議等で話し合い、更なる安心安全に向けた体制作りが望まれる。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム憩の家 自己評価・評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重した言葉掛けや対応を行っている。個人情報については、ご家族に説明し、同意を得ている。	人格を尊重し、誇りを損ねることが無いように、強制したり説得しないことを職員間の共通の認識としている。言葉かけにも注意している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者の意志・希望を尊重し、自己決定権を重んじている。自ら決められない方には相談援助を行いながら決定して戴く。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今日一日のしたいことややりたい事への希望達成のための支援を出来るだけ行うよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方らしい身だしなみに配慮した支援を行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が食事する楽しみを共有し、コミュニケーションの場ともなっている。誤嚥などの緊急対応を想定したポジショニングを取っている。	入居者の希望を取り入れ職員が献立を考えて調理し、入居者は下ごしらえや片づけを行っている。外食にも時々出掛けるなど、食事を楽しむ支援をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日記録を取りつつ気配りしながら行っている。中には十分な水分摂取がどうしても難しい方がおられ、時に点滴などして頂く事もある。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医とも協力しながら個々に合わせた口腔ケアを毎日・毎食心掛けている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム憩の家 自己評価・評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の観察・記録により、排泄パターンを把握し、サインを見逃さず自力排泄できるよう支援している。	個々の排泄のパターンを把握することで、身体機能に応じた自然排泄の支援をしている。ポータブルトイレの使用、シルバーカーによるトイレまでの移動等のほか、夜間も個別のパターンを重視した支援が行われている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の観察・記録を基に食事量・水分量の把握をしている。予防措置としては体操や散歩、飲食物の工夫を行っている。それでも駄目な場合は投薬で対処している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応入浴日を決めているが、飽くまで利用者本位なので臨機応変に対応している。また、冬には例えば柚子湯など、工夫している。	入浴の曜日は決まっているが、個々に沿った支援が行われている。入浴が流れ作業にならないよう、拒む入居者に対しては、接し方や時間を変える等、タイミングを図る工夫をしている。職員は2名体制で入浴を支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の照明や温度・湿度など利用者の希望や体調に合わせて配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員の凡そは情報を把握しているが、説明書を見たりナースに尋ねるなどしている。また、変化があった場合は、送り帳に記載したり言葉で伝えたりしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族や本人からの情報を基に生活歴や特技を活かした役割などに就いて貰う事により、日々の暮しに喜びを感じて戴けるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各々の体調や気持を考慮しながら出来るだけ皆外出するよう努めている。時に外食に出掛けたりイベントに参加したりしている。	体調や気持ちを大切に、1日1回は皆が散歩や買い物に出かける工夫をしている。テラスからは車椅子で庭に下りることもでき、時には野菜の収穫を楽しむ事もある。イベントへの参加や外食も行われている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所



グループホーム憩の家 自己評価・評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、ご自分でお金の管理をされている方はいない。稀に買い物をされる方がおられるが、直接レジで支払いをされる事は無い。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話させて欲しいと強く要望される事は滅多に無いが、稀に訴えがあった場合は積極的に支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のリビングは比較的広く、食事以外は催し物などに使用している。リビングの南側には大きな芝生が広がっており、夏は西瓜割、秋には運動会などに利用した。その中の小さなログハウスへは時々お茶に出掛けたりする。	建物は平屋作りで、居間の窓が東と南に開口し日当たりが良い。廊下の壁や居室の入り口は、入居者の写真や作品が数多く飾られ、楽しい様子が伝わってくる。廊下はボーリングが行われる等、身体機能維持に有効活用されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に合わせた居場所造りを行っている。其々寛ぐ場は大体決まっている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室はプライバシー空間として使い慣れた家具や寛げる物を持ち込み居心地の良い環境造りに努めている。	居室は入居前の馴染みのものが持ち込まれ、個性的な設えになっている。整理整頓が行き届き、居心地のよい住環境が整えられている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本的な福祉環境は整っている。各所に手摺もあり、身体機能を活かすという意味でも整備されている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所